
臨床検査総合部門企画

10月12日（土）13：00～14：30 第2会場

<テーマ>

「癌の免疫療法と臨床検査との関わり」

<ねらい>

2018年のノーベル医学生理学賞の受賞で話題となった癌免疫療法。これについて最前線の医療に携わる演者の方に講演をいただき免疫療法とはそして臨床検査とどのような関わりがあるのかを学び知見を広めていきたい。

司会 武藤次郎（岐阜赤十字病院）

杉下 毅（羽島市民病院）

<内容>

1. 腫瘍免疫学の基礎

～がん免疫の仕組みを知る～

伊東 大介（ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社）

2. 変革期の肺癌診療

-診断・検査によって患者さんの運命が変わる-

大矢 由子（愛知県がんセンター）

臨床一般部門企画

10月12日（土）13：00～14：30 第3会場

<テーマ>

部門のボーダー（垣根）を超えて考える～他部門からみて一般検査に望む事は何か～

<ねらい>

日常業務の中で、様々な部門（病理・細胞診、微生物、臨床化学）との連携が不可欠です。尿・体腔液中の「異型細胞」について判断に迷う場合の鑑別方法、細菌尿の考え方、腎機能評価をする上で重要な臨床化学項目（Cre、eGFR、FENa、FEun、 β 2MG、L-FABP、NGALなど）の見方、考え方を各部門からの視点にて考え、ディスカッションを通じて理解を深めていきたい。

司会 平田 基裕（青山病院）
川井 孝太（磐田市立総合病院）

<内容>

1. 一般検査から他部門に教えてほしい事
林 晃司（岐阜赤十字病院）
2. 病理・細胞診検査からの視点
森 栄（郡上市民病院）
3. 微生物検査からの視点
末松 寛之（愛知医科大学病院）
4. 臨床化学検査からの視点
山田 依里（金沢医科大学病院）

臨床血液部門企画

10月12日（土）13：00～14：30 第4会場

<テーマ>

『 施設間の情報共有による業務改善 』

<ねらい>

自動血球計数器が誕生し約60年が経過しました。当初は、赤血球や白血球の1項目しか検査できませんでしたが、改良が重ねられ、今日では多項目を同時に短時間で自動算定でき、さらにフローサイトメトリーの普及によって血球の精密な分類までもが可能となりました。その結果から得られる様々な情報を正しく臨床支援する為に、施設ごとに色々と工夫をされていると思います。そこで今回、血液検査業務で注意するポイントや測定結果・スキヤッタの見方について紹介します。

どのような結果の時に再検査をしているのか？

どのようなデータの時に血液像標本を追加しているのか？

どのようなスキヤッタの時に血液疾患を疑うのか？

施設によってやり方は様々ですが“当院ではこういったルールで臨床支援している”といった事例を紹介します。施設間で情報共有することで、自施設の業務を見つめ直すきっかけになったらと思います。

司会 渡邊 宜典（JA岐阜厚生連 岐北厚生病院）

大橋 勝春（独立行政法人 三島総合病院）

<内容>

1. 業務で注意するポイント ～自動再検項目などのロジック紹介～

山本 将毅（岐阜県立多治見病院）

渡邊 正博（浜松医療センター）

2. どんなときに血液像を引いていますか？

広瀬 逸子（鈴鹿回生病院）

中村 利弘（市立砺波総合病院）

3. 血液疾患に気付く工夫

川崎 達也（JA愛知厚生連 江南厚生病院）

川端 絵美子（金沢赤十字病院）

臨床微生物部門企画

10月12日（土）13：00～14：30 第5会場

<テーマ>

『微生物検査の標準化』

<ねらい>

昨年末に医療法が改正され、標準作業書や台帳の整備等が各検査室に求められるようになりました。また、ISO15189取得を目指す施設が増える中で、かつては、各個人の「経験と勘」に頼ることの多かった微生物検査にも、「標準化」の波が押し寄せています。

『標準化』が必要なのは分かる。でも…何から取り組んだら良いのだろうか？。その具体策に頭を悩ませている微生物検査の担当技師がまだまだ多いのが現状です。

本企画では、各県の代表者による様々な視点からの「標準化」への取り組みを紹介いただきます。講演後のディスカッションを通じて、参加者が「標準化」を少しでも身近に感じ、本企画の聴講が、自身の行動変容のきっかけとなることをねらいとしています。

司会 中村 明子（愛知医科大学病院）
後藤 雪乃（岐阜県総合医療センター）

<内容>

1. 「標準化への理想と現実～ISO取得を目指す立場から～」
中村 雅彦（富山県立中央病院）
2. 「Let's role playing!—行動の標準化を目指して—」
河内 誠（JA愛知厚生連江南厚生病院）
3. 「細菌検査室におけるISOの取り組み」
中澤 恵子（三重大学医学部附属病院）
4. 「品質マネジメントシステムにおける検査情報システムの役割」
名倉 理教（浜松医科大学医学部附属病院）
5. 「技師会活動からの標準化～県内の基礎力upを目指して～」
河村 佳江（金沢医科大学病院）

臨床生理部門企画

10月13日（日）12：50～14：20 第1会場

<テーマ>

全身の血管を極めよう！ ～頭頸部・上肢・胸腹部・下肢～

<ねらい>

超音波検査を中心に、頭部から下肢まで全身の血管病変について他の生理検査等も関連付けしながら、病態を多角的にとらえることをねらいとした。

また最新の知見も交えて学べる場としたい。

司会 梅田 江里子 （可児とうのう病院）

笹木 優賢 （名古屋大学医学部附属病院）

<内容>

頭頸部血管	松林 正人 （三重ハートセンター 診療支援部 臨床検査科）
上肢血管	矢野根 滋明 （石川県済生会金沢病院 検査部）
胸腹部血管	田島 尚美 （市立砺波総合病院 臨床検査科）
下肢動脈	神田 竜平 （愛知医科大学病院 生理機能検査センター）
下肢静脈	深澤 聡 （聖隷三方原病院 臨床検査部）

輸血細胞治療部門企画

10月13日（日）9：00～10：30 第4会場

<テーマ>

『安全な輸血療法の実現のために』

～地域の輸血療法の向上をめざした技師のかかわり～

<ねらい>

輸血担当検査技師は、各施設の輸血療法の安全性の向上や適正使用の推進に日々力を注いでいる。また、技師会教育活動や、合同輸血療法委員会での活動で地域の輸血療法の向上にも寄与していることと思われる。今回の部門別企画では、地域の輸血療法の向上を目指した技師のかかわりについて技師会教育活動や、合同輸血療法委員会での活動を発表していただき、輸血チーム医療として、輸血認定医、認定輸血検査技師、学会認定輸血看護師が力を合わせ、各施設や地域の輸血医療の質を向上する体制の原動力としての技師のありかたを大垣市民病院小杉先生より講演賜ります。後半には若干ではありますが討論の時間を設けますので参加者全員が有意義な時間になることを期待したい。

司会 田中 由美（三重大学医学部附属病院）
森本 剛史（松波総合病院）

<内容>

1. 教育講演

『安全な輸血療法の実現のために』～輸血担当技師に期待すること～

大垣市民病院 血液内科部長

小杉 浩史先生

2. 各県の技師会教育活動・合同輸血療法委員会での活動報告

① 静岡県での取り組み

橋ヶ谷 尚路（焼津市民病院）

② 石川県での取り組み

二木 敏彦（金沢赤十字病院）

③ 岐阜県での取り組み

森本 剛史（松波総合病院）

病理細胞部門企画

10月13日（日）12：50～14：20 第5会場

<テーマ>

ゲノム医療に伴う病理診断に必要な品質管理

<ねらい>

近年はがんゲノム医療に代表されるように、病理検体の品質により治療方針が大きく変わっていくことは周知のこととなり、病理検体の品質を担保するために医療法改正等を含め取り巻く環境は大きく変化している。

変化する環境に対応するなかで、話題となった課題をどのように解決していくのか討論し更なる飛躍へつなげていきたいと考え企画しました。

司会 大鹿 均 （東海細胞研究所）
山本 雄一 （済生会松坂総合病院）

<内容>

1. 医療法改正及び国際的な外部評価機構で要求される品質管理
田代 広 （静岡県立静岡がんセンター）
2. ゲノム診療用病理標本に必要な知っておきたい7つのルール
玉野 裕子 （金沢大学附属病院）
3. ゲノム診療用に必要な標本作製・診断の現状と課題
林 宏 （富山市民病院）
4. 結果閲覧管理や検体取り違い防止に関わる医療安全対策管理
佐藤 浩司 （名古屋大学医学部附属病院）

生物化学分析部門企画

10月12日(土) 13:00~14:30 第5会場

<テーマ>

検査データの精度保証 ～RCPC と日常精度管理 Q&A～

<ねらい>

臨床化学免疫検査において精度保証は不可避な課題であり、それを日常にて実践するためには多角的な知識が必要です。本企画ではRCPCを通し、検査データを読む力を身につけるとともに患者個別精度保証の実践力を養うことを目的とします。また、日常行われるQC測定に係る実践的な対応方法についてパネルディスカッション方式にて学んでいきたいと考えております。聴講者参加型セッションを予定しております。当日はGoogle Formsを利用しますので、下記のQRコードよりご参加ください。

<内容>

1. RCPC 症例から学ぶ検査データの見方

① 症例1

演者 石田 秀和 (岐阜大学病院)
座長 林 克彦 (江南厚生病院)

② 症例2

演者 大槻 晋也 (富山大学附属病院)
座長 春口 公哉 (磐田市立総合病院)

2. 日常精度管理 Q&A

パネラー 中部圏支部部門長 滝野 豊 (北陸大学)
愛知県部門長 林 克彦 (江南厚生病院)
石川県部門長 仁木 裕子 (金沢医科大学病院)
岐阜県部門長 石田 秀和 (岐阜大学病院)
静岡県部門長 春口 公哉 (磐田市立総合病院)
三重県部門長 小林 千明 (伊勢赤十字病院)

症例・事例はこちら

